

大会レポート

第75回都市計画全国大会 ～福島県郡山市～

茨城県土木部都市局都市計画課 主事 藤田 英和

はじめに

令和5年11月16日、17日の2日間にわたり、福島県郡山市にて公益財団法人都市計画協会主催の第75回都市計画全国大会が開催されました。全国各地から都市計画・まちづくりに携わる関係者が出席し、表彰や記念講演、国土交通省大臣官房審議官による主報告、部会毎のテーマ別の報告、現地調査が行われました。2日目の現地調査では3つのコースに分かれ、各地の都市計画・まちづくりの現場を視察しました。

第1日目(大会)

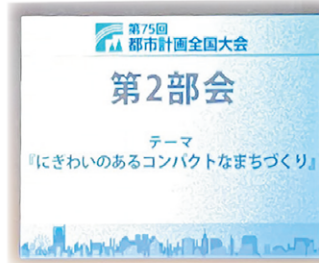
福島県土木部長の開会宣言のあと、石井都市計画協会会長による主催者挨拶、福島県知事・郡山市長の挨拶があり、続けて都市計画協会会長賞など各種表彰が行われました。



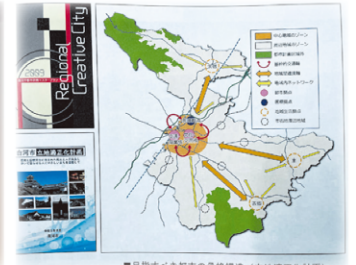
第75回都市計画全国大会表彰式の様子

全体会議としては、国土交通省大臣官房審議官より、令和6年度都市局関係概算要求の基本方針、まちづくりGXなど、都市行政をめぐる最近の動きについて報告がありました。

本年度の部会のテーマは「東日本大震災・原発事故からの復興まちづくり」、「にぎわいのあるコンパクトなまちづくり」、「Park-PFIを活用したまちづくり」の3部会からの選択制となっており、出席した「にぎわいのあるコンパクトなまちづくり」部会では、福島県白河市から「白河小峰城城下町を核とした拠点整備」、広島県竹原市から「まちなかへの子育て支援施設の集約化とウォーカブルなまちづくり」、福井県敦賀市から「敦賀駅西地区土地活用事業～官民連携による交流拠点整備～」についての報告がありました。



第2部会



報告1 白河市

白河市は立地適正化計画の考え方に基づき、令和4年4月に用途地域の大幅な変更を行い、おおよそ1,500haの用途地域を1,300haにコンパクト化するとともに、新白河駅周辺を商業地域に変更し、ビジネス街としての土地利用を推進し、駅周辺を「白河」の顔としての都市づくりを引き続き進めていくとの報告がありました。

竹原市は子育て支援施設の集約化やウォーカブルなまちづくりを進める一方で、中心市街地に位置する市民館・図書館・児童館などの公共施設の老朽化とともに、商業施設が撤退するなど、まちの中心としての機能や賑わいが低下している現状があり、こうした中で現庁舎跡地等を活用して、市民が集まる公共機能を再編するとともに、民間機能とも連携して、「まちの中心」に新たな価値を生み出すことを目的に、まちづくりビジョン及び複合施設整備に向けた計画策定に取り組んでいるとの報告がありました。

敦賀市は北陸新幹線敦賀開業3年前倒しの決定を受け、駅西口に土地区画整理事業で生み出した広大な事業用地について議論を加速させ、市議会、有識者と各種団体で構成された検討委員会及び市民ワークショップ等での意見を踏まえ、官民連携で整備を進め、事業に取り組むにあたっては、内閣府官民連携専門家派遣制度の活用やサウンディング型市場調査を実施するとともに、募集要項の作成、プロポーザル型審査などの事業者選定、契約にあたっては法的な担保も含め、専門コンサルタントに業務支援をいただいたなどの報告がありました。



報告2 竹原市



報告3 敦賀市

記念講演は、福島大学 川崎 興太教授による「福島の未来を紡ぐ都市計画とまちづくり」に関する講演がありました。

講演では、「福島復興政策の構造と展開」、「被災地の現状」、「被災者の現状」、「福島復興の課題」について、浪江町や双葉町、大熊町の現状を原発事故前と後、現在に至るまでの経緯の説明があり、中心市街地の土地利用の実態について、現地の写真や土地利用の移り変わりなどを踏まえた復興の経過について説明がありました。

また、今後は東京・国・行政依存でまちを再生産するのではなく、住民が復興のあり方を議論し、地域のことに共同で自己決定してまちをつくりあげることが重要であるとの考えを説かれました。



記念講演 講師
福島大学 川崎 興太教授
※右写真は参考文献。



○東日本大震災・原子力災害伝承館（東日本大震災関連）
【双葉町】



○震災遺構・浪江町立請戸小学校（東日本大震災関連）
【浪江町】



○いわき駅（中心市街地活性化）
【いわき市】

いわき駅周辺においては「市街地再開発事業」により敷地を統合するとともに、共同化された施設建築物の整備等を行うことにより、土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新を図り、いわき駅周辺に更なる賑わいが創出されています。



■第2日目（現地調査）

双葉町、浪江町、いわき市における災害からこれまでの復興やまちづくりに係る現地調査に参加しました。

○福島県復興祈念公園（公園・東日本大震災関連）
【双葉町】

東日本大震災の犠牲者への追悼と鎮魂、震災の記憶と教訓の伝承及び復興への強い意志の発信等を目的として、津波と原発事故で甚大な被害を受けた双葉町と浪江町にまたがる区域において、国・県の連携のもと平成30年度より復興祈念公園の整備が進められています。

完成供用後は「東日本大震災・原子力災害伝承館」「震災遺構請戸小学校」など、教育旅行をはじめ多くの方に利用されている近隣施設とも連携し、さらなる地域の復興に資することが期待されています。



■おわりに

被災地復興のまちづくりにおいては、住民意向のていねいな聞き取りとスピード感のある意思決定の両方が求められる中、被災者に寄り添うことの難しさと向き合いながら、ここまで復興が進んできたように思います。今後は被災地の経験を風化させず、全国で共有し、経験を活かし、備えを急ぐことも重要な課題になってくると考えます。